

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グランディールキッズまめびよ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○訪問先施設評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人の児童発達支援や放課後等デイサービスを利用している者であるため、保護者とも関係機関とも連携が取りやすい。	事業所での日頃の取り組みや本人の様子をこまめに聞き取りと共に状態を見て確認するようにしている。 事業所での本人の強み弱みを把握すると共に登降園時に保護者へ確認する。	同法人内での事業所であっても、別事業であることを意識し、それぞれの立場から正しい情報共有に努め必要な支援を見極めていく。
2	障がいへの理解が深まる。否定的な言葉が飛び交わない環境で仕事ができる。 日々の支援の中で、子どもたちのつまづきに偏見がなく、子どもたちに関わる中で特別な支援と言う認識ではなく“出来ないこと”に対して当たり前はどうしたらよいか考えることとなり、誰にでも出来る仕事だと思える。やりながら学べる仕事である。	子どもたちのつまづきに目を向け、関わる職員みんなで意見を出し合い、それぞれが学びの場となる機会を持っている。	職員の体制を整え、事業所内だけでなく法人内や外部へ出向き、それぞれの立場の職員が学べる環境を作っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問員が保育士のみである。	サービスとして選んでいただいた時に、ニーズに対応できない場合がある。現在は利用児のニーズに応じて専門職のいる訪問支援を案内している。	より専門的に多岐にわたる支援が出来るよう、リハビリ職や心理職など専門員の配置を検討する。
2	情報を共有する上で今あるツールが活用できていない事。 職員全員への周知が難しい事。お互い遠慮し発信できなかったり、聞く事が出来ない事。	大きなグループ内での発信にリアクションがないため、発信に自信が持てず活用しなくなっている。 コミュニケーションをとる時間が作れない事。	自分に関係する事が発信された場合は、必ず返事やリアクションをし、各自が連絡を受けたことに責任が持てるよう、所属リーダーから全員に発信した。 業務を見直し必要なコミュニケーションの時間を確保する。
3	毎年、毎月の業務のマニュアルの更新が出来ておらず、毎回初めから取り組むため時間がかかっている。	業務の改善や仕事の効率化を図りたいが、マニュアル化したり文面に残し誰が見てもわかるような引継ぎを作る時間がないまま次に進んでしまう。	前回の引継ぎとなるような振り返りを残し、取り掛かる前に確認をする。忘れないようメモをとり、書面に残す時間がない場合は事務に依頼する。 前回の担当に引継ぎ説明を受ける。前回の担当も教える姿勢を持つ。余裕を持って事務作業が出来る環境を整備する。